



中島 数宜 議員

Q 古文書等、歴史的資料の保存は

A 町長

文化財の保存や、活用について計画策定を進める。

【Q1】 古文書や歴史的資料はその土地の先人達の歴史を物語る大切なものである。個人が将来にわたり、保管していくには限界がある。公的施設で保存ができないか。

【A1】 今後、2年間で文化財の保存や活用について町民の意見を反映しつつ計画策定を進める。

【Q2】 町内の各家庭には、歴史的資料を多数保管されている。発掘はどのように進めるか。

【A2】 文化財の保存と活用に関する計画を策定する中で古文書等、歴史的資料の掘り起こしとあり方について検討したいと考えている。

【Q3】 計画策定に向けた具体的なスケジュールは。

【A3】 令和4年度から住民参加のワークシヨップを実施し、地域に埋もれている文化財などの洗い出しや活用方法について協議を行う。

【Q4】 筆の里工房周辺整備事業で、保存可能な施設はできないか。

【A4】 現段階では想定していないが、保管の必要性や保管場所について研究を進めていく。



▶村絵図(約150年前)



山野 千佳子 議員

Q 町内男性個室トイレにサンタリーボックスを

A 町長

近年の状況に対応するため、設置について検討していきたい。

【Q1】 日本は世界トップクラスのがん大国だが、治療後の生活に必要な尿漏れパットを捨てる汚物入れが男性トイレにない。男性個室トイレに汚物入れを設置してはどうか。

【A1】 近年の前立腺がんや膀胱がん患者の増加に伴い、様々な尿漏れパット等が普及している。サンタリーボックスを必要とする人も見込める状況であるため、設置に向け検討したい。

【Q2】 町内何か所の男性個室トイレがあるのか。

【A2】 役場庁舎をはじめ、17施設に59か所の男性個室トイレがあり、多くの方が安心して利用できる公共施設の環境づくりをしていくためには、検討する必要があると考える。



▶ペーパーサンタリーボックス

【Q3】 小・中学校での保健

の授業で、がんの予防、早期発見、早期治療、最新の治療法、末期がんの対応、がん検診の重要性やがん患者の体験談などを教えてはどうか。

【A3】 今採用している教科用図書にがんについての記載がある。小学生は6年生、中学生は3年生の保健の学習を中心にがん教育を実施している。

Q 農業後継者問題と荒廃化対策は

A 建設農林部長

消費地が近い立地的な優位性を生かした農業を推進する。

【Q1】 農家が減少傾向にある。過去10年間の農家世帯と荒廃地面積はどのように変化したか。

【A1】 平成22年と令和2年を比較すると、農家数は560戸から448戸に、経営耕地面積は96haから63haにそれぞれ減少し、農業の衰退と耕作されない農地が増えていると認識している。

【Q2】 荒廃地も進んでいる抑制対策は。

【A2】 町内の平均的な経営規模などから平成23年に全域を農地取得時の取得下減面積を3,000㎡から1,000㎡へ引き下げ、農地を譲りやすくした。また、水稲や野菜作りの基礎知識習得の勉強会をJA安芸と協働して、毎月1回開催している。



▲荒廃地

【Q3】 令和2年12月の議会で山林内をメッシュ柵で囲うイノシシ被害対策を要望したが進展しているか。

【A3】 他市町の事例でも対象農地一帯を囲い、完全にブロックできるような敷設方法をとることで一定の効果はある。対策を実現するには、地域が共同で取り組むことが不可欠であり、設置後の管理も含めた組織づくりも必要となる。

【Q4】 6次産業化の必要性は。

【A4】 今後の課題として研究をしていく。

Q 投票所におけるデジタル化は

A 総務部長

DXの推進により環境を整えば、デジタル化を進めたい。

【Q1】 昨年の秋の知事選挙で二重投票があったが、その原因と防止策はどう考えているか。

【A1】 現在、期日前投票において、氏名、生年月日、住所の住民情報を扱うシステムを使用し、選挙人名簿との照合を行っているが、投票所ではシステムが使用できない。

選挙事務従事者の事務説明会において、選挙人名簿の照合を徹底するよう再度注意を促すとともに、選挙事務の精査に努める。

【Q2】 投票所において、システム使用により、ミスが防げると思うが設置は可能か。

【A2】 使用している選挙システムは、セキュリティの観点から物理的な方法のみアクセス可能であり、WiFiなどの無線通信では行えない。

現在、老人集会所4か所を投票所として使用しているが、有線環境の整備について、今は考えていない。

DX(デジタルトランスフォーメーション)とは:

進化したIT技術を浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革させるという概念のこと。



▶投票箱